

高齢者サロンの役割構造

——ゴフマンの相互行為論の視点から——

東北工業大学 木村雅史

1 目的

本報告の目的は、仙台市郊外 A 町の高齢者向け介護予防事業である a サロンへの参与観察と参加者へのインタビューを通して、a サロン活動を特徴づける地域サポーター（以下、サポーター）役割の実践をアーヴィング・ゴフマンの相互行為論の観点から分析し、a サロン活動に対する参加者の意味づけや a サロン活動の意義について考察することである。

2 方法

本報告では、A 町内で開催されている 19 ヲ所の a サロンのうち、4 ヲ所をとりあげ、参与観察と参加者へのインタビューを行った。a サロンの参加者には、活動主体であるメンバー（平均年齢 78.2 歳）と、活動の企画や運営、司会進行、昼食の準備等を行い、メンバーの活動をサポートする地域サポーター（平均年齢 64.4 歳）がいる。サポーターの担い手も、各地区の高齢者であることが多く、現役の町内会役員や民生委員、元経験者、地域のボランティアサークルのメンバー等、各地区の人的資源が活用されている。インタビューは、メンバーとサポーターに対するグループインタビューと、サポーター代表やその元経験者に対する個別インタビューを組み合わせて行った。

3 結果

分析の結果、a サロンのサポーター役割を特徴づけているのは、サポーター役割を遂行する際、町内会役員や民生委員等の地域役割の他、各人が過去に経験してきた仕事や趣味、それに関連した人的なネットワーク等、個人的資源が参照、動員されていくという点である。サポーター役割の遂行を通して、a サロンと他の地域組織との連携関係が構築されていくと同時に、サポーター個人もやりがいや自己実現の機会を獲得していた。

加えて、参与観察で明らかになったのは、メンバーにとって楽しくストレスのない雰囲気づくりのため、サポート活動においては、各メンバーの人格を尊重し、その要望を可能な限りくみとる努力がなされると同時に、そのことでメンバー間の平等性が損なわれないように細かい配慮が払われているという点である。こうした配慮のルールは、ゴフマンの相互行為儀礼論の枠組でいえば、他者に対する呈示儀礼や回避儀礼の実践として描き出すことができる。

ただ、サポーター役割の遂行時に動員される地域役割や個人的資源は、ときにこうした配慮のルールに矛盾し、サポーターとメンバーの関係性や a サロン活動自体に緊張や葛藤を持ち込んでしまうことがある。このような意味で、外部の資源を a サロン活動へと媒介するサポーター役割は、a サロン活動にとって活動を活性化させもすれば、鈍化させもする両義的な機能をもっているといえる。

4 結論

以上の考察から明らかになるのは、サポーター役割が a サロン活動にとってどう機能するかは、各サポーターが a サロン外の資源をサポーター役割にどう関連づけ（あるいは切り離し）、サポーターとしての振る舞いを構成していくかに依存するという点である。このような意味で、a サロン活動は、高齢者が自らの獲得してきた資源を選択的に捉え直しながら、他者と共同の意味空間を構築していく実験場としての意義をもっているといえる。